

悩まなくてもだいじょうぶ



知っておきたい アレルギーの話

NPO法人アレルギーを考える母の会
代表 園部まり子

イラスト/清水直子



第35回

一人のお母さんの願い

粘り強い働きかけで 研修会が実現

「母の会」はいつも一人を大切に、共感と励ましを送り、適切な医療や学校・園・行政によるサポートへの橋渡し^{はしわた}を行なうことを心がけています。つながりには各地に広がり、そうした一人ひとりが、地域の取り組みを進める力になっています。

8月28日、岡山県高梁市を訪問しました。新横浜から新幹線で3時間岡山で乗り換えて山間を走ること35分、備中高梁駅で待つていてくれたのは、5年前に相談をいただいた以来、何度もメールや電話でやり取りをしてきた、親子でアレルギーのお母さんでした。このお母さんと実際に会うのは2回目なのですが、旧

知の友人のように和やかに、嬉しい時間を過ごさせていただきました。

高梁市を訪れたのは、このお母さんの粘り強い働きかけで実現した岡山県学校給食会支部主催の「食物アレルギーに関する研修会」に参加させていただくためです。研修会は市の文化センターに70人の教職員、栄養士、調理員さん、校医、保護者も集まり熱心に行なわれました。「母の会」がご紹介し講師を引き受けていただいた小児アレルギー専門医が講演と質疑を行ない、参加者全員が自己注射「エピペン」のトレーナーを使い、代表が本物の「エピペン」を使ってみる実習も行ないました。充実の一日、お母さんの願いと行政の担当者の熱意が結実する、そのお手伝いを、専門医との連携を活か



そのべ・まりこ ● 神奈川県社会福祉協議会セルフヘルプ支援事業運営委員。困っている患者と専門医との橋渡しを第一に「治療ガイドライン」情報などの提供、専門医による講演会や会報発行、行政への働きかけを行なっている。共著に『食物アレルギーの手びき 改訂第2版』（南江堂刊）。

して「母の会」がさせていた形でした。

地域の行政と二緒になつて取り組み

「母の会」は今年、全国で24回の研修会を行なう予定です。東日本大地震で被災した自治体に代わって、また自治体から要請を受けて「母の会」が主催、あるいは高梁市のように地域のお母さんが上げた声を後押ししてなど形はさまざまですが、地域の行政と一緒に学校や保育所の教職員、栄養士、保健師など子どもたちの支援に携わる方たちに、研修の機会を提供しています。亀の歩みかもしませんが、子どもたちの笑顔のために、こうした取り組みを続けていきたいと思っています。